

人 口

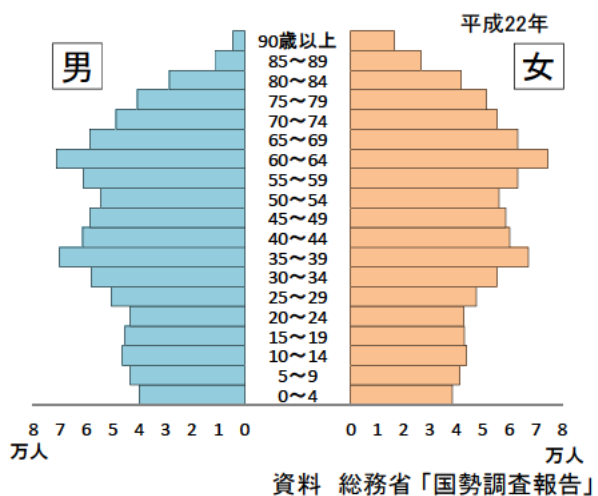
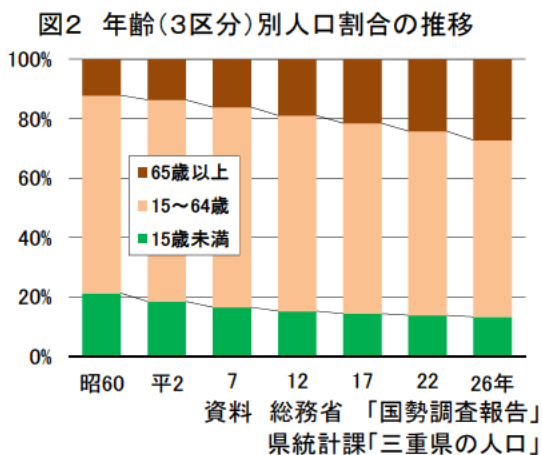
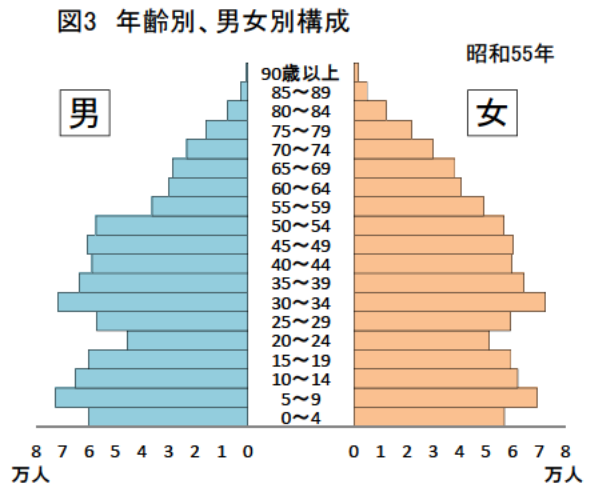
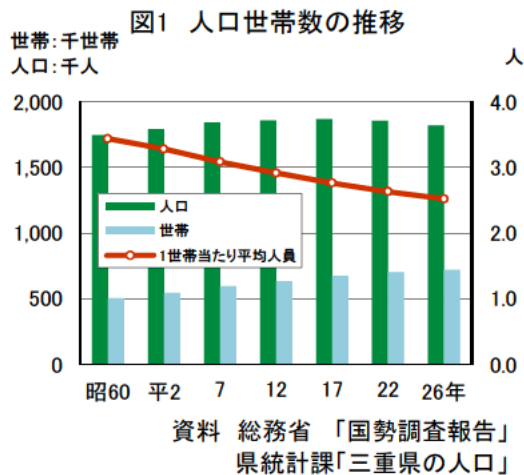
平成26年推計人口

平成26年10月1日現在の総人口は182万491人(男88万6,362人 女93万4,129人)で、前年に比べ8,572人(0.47%)減少しました。

また、年齢3区分別にみると、年少人口(15歳未満)が総人口に占める割合は13.2%、生産年齢人口(15~64歳)割合は59.1%、老年人口(65歳以上)割合は27.0%となっています。平成22年国勢調査結果と比較すると、年少人口割合が0.5ポイント、生産年齢人口割合が2.5ポイント低下しました。一方老年人口割合は2.9ポイント上昇しました。

平成22年国勢調査結果

平成22年10月1日現在の総人口は185万4,724人(男90万3,398人、女95万1,326人)で前回調査の平成17年に比べ12,239人(0.7%)減少しました。国勢調査結果による三重県の人口の推移を見ると、昭和30年~35年にわずかに減少したのを除くと、大正9年以降増加を続けていましたが、今回減少に転じました。総世帯数は70万4,607世帯で、平成17年に比べ2万9,148世帯(4.3%)増加しました。



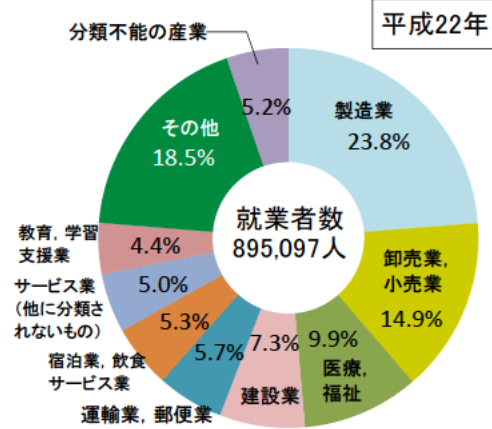
産業別就業者数

平成22年10月1日現在（国勢調査）の15歳以上の就業者は89万5,097人で、前回調査の平成17年に比べ2万7,525人減少しました。

産業大分類別にみると、最も多いのは製造業の21万2,856人（構成比23.8%）、次いで卸売業、小売業の13万3,343人（同14.9%）、医療、福祉の8万8,904人（同9.9%）と続いています。

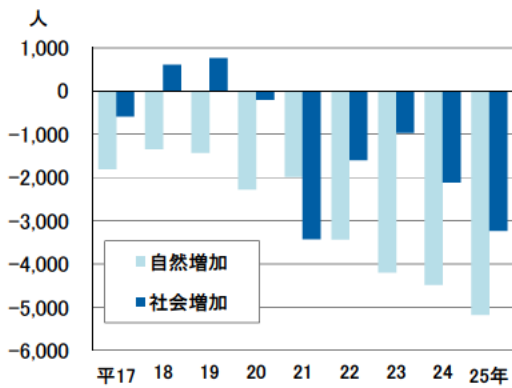
また、産業3部門別にみると、第1次産業が3万3,016人（構成比3.7%）、第2次産業が27万8,346人（同31.1%）、第3次産業が53万6,802人（同60.0%）となっています。

図4 産業別就業者数



資料 総務省「国勢調査報告」

図5 人口動態の推移



資料 総務省「住民基本台帳人口移動報告年報」
厚生労働省「人口動態統計」

人口動態

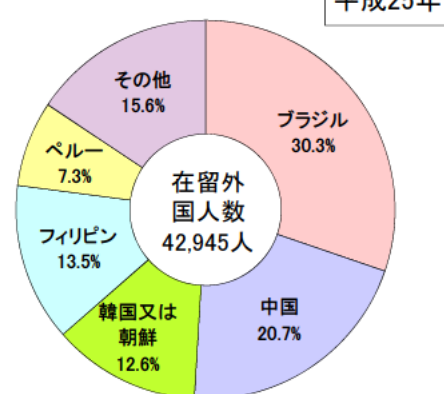
平成25年1年間の人口動態は、出生1万4,514人、死亡1万9,690人、他都道府県からの転入2万6,747人、他都道府県への転出2万9,973人となりました。

人口動態の推移を自然増加（出生－死亡）と社会増加（県外からの転入－県外への転出）でみると、自然増加数は年々、減少数が拡大する傾向にあり、平成25年には5,176人の減となりました。また、社会増加数は平成18、19年は転入超過、20年から25年までは6年連続（平成25年3,226人）の転出超過となりました。

在留外国人数

平成25年12月31日現在の在留外国人数は、4万2,945人でした。国別の内訳をみると、ブラジルが1万2,993人（外国人構成比30.3%）、中国が8,887人（同20.7%）、韓国又は朝鮮が5,419人（同12.6%）、フィリピンが5,796人（同13.5%）、ペルーが3,136人（同7.3%）などとなっています。

図6 在留外国人数



資料 法務省「在留外国人統計」